

アタリ

呉目号 | No. 00016
 平成26年10月13日(月)
 発行 書肆べう
 ながしろぼんり

やれんのう。

忙 忙しい時には忙しく、暇な

も無いというのが三文ライターの宿命でえことで、アタリ発行が三か月近く空いてしまったことをお詫びいたします。これでイソガシイ時にイソガシクないと延命出来んのです。当たり前のようだがずっと暇でいて生きていけるといってもどんなもんなんだか。人は自分に無いものを欲しがるところでバランスを保とうとする。この夏は結構あっちこっち、北は大宮から南は目黒まで——全然すごい気がしない。東は八柱から東は呉まで。こっちのほうがいいな。久々がたらダイジェスト版でお送りしてつたら紙面も埋まるであらう。リハビリリハビリ。

ゆうしお型潜水艦「あきしお」(SS-579)。隣のゆめタウンがのどかな感じを醸し出す



艦 隊これくしょんブームだ
 呉まで行ってきました。呉線というのは大抵の場合、広駅で電車を乗り換えねばならな

い仕様となっておる。ややこしい話や、もっとスッキリせんもんですか。旅の者がゴチャゴチャ云うなッ!



呉線。黄色いがしぶい

呉。ゴではない。駅前では大型商業施設が空中歩道でつながっておる。大和ミュージアムへの案内板を見ながら歩いていくとそのままゆめタウンの中に入っていくてしま。斬新! ゆめタウンというのは長崎でも見たな。順路通りに外に出るといきなり潜水艦がどすーん、とある。海上自衛隊の「てつのくじら館」である。嘘。潜水艦は潜水艦で、建物は裏にあるそうです。行かなかったけど。潜水艦を横目にやや行くと大和ミュージアムだ。ちょうど八月三十日のこと、24時間テレビの黄色いシャツの団が目

立つ。来る電車の中でもおっさんが着てて非常に違和感があったんだけど、こうやって集団としているとなんだか判る。天野喜孝デザイン也。大和ミュージアム、企画展は戦艦大和・武蔵の進水式展。これがあーた、すごくいいんです。戦艦をはじめとして駆逐艦、巡洋艦なんかの進水式のために作られた絵葉書というのが実にいい仕事してる。意匠担当はこういうの、どこで学んだんだろうな。



ここ最近大人気の駆逐艦島風の進水式絵葉書。

あとは魚雷の実物があつた
 筆者のように艦これからスイッチが入って訪れる観光客も少なくなないでしょうが、それでも土産物売り場に艦これの力の字も出てこないのは非常にええことだと思います。硬派万歳!

べう式「アタリ」は、書肆べうの発行する冗句と与太話のフリーペーパーです。出来れば各自でPDFをダウンロードし、プリンターなどを駆使してお楽しみください。A4版です。御連絡はbanric@gmail.com (ながしろ) まで。Website: <http://sbew.web.fc2.com/atari/>

安直 一才一ぱい
 小廻程 二とび
 土曜三時より交換券発行

原物販売
 原価半額
 付録付
 五十八冊

東原下谷柳屋町 株式会社 競輪社
 三丁目俵屋町 武蔵

砂ばかりあるところ さばく

目

黒雅叙園に行つて参つた。雅叙園ってなんなんすかねえ。そもそも「叙」の字だつてなんだかわからない。地図を見るとずいぶん広そうだから日本庭園か何かだと思つてたら結婚式場だったんですねあすこ。目黒の駅から歩いて腰を抜かしました。道すがら、ホリプロのあるのも腰を抜かしました。昨今何かってえと腰が抜けることになつておる。なるな!

雅

叙園についてはネットなのですが、さしあたり昭和六十年に料亭として作られていて、百段階と呼ばれる一本階段にお座敷が七つあつて、今となつてはこの階段が東京都の登録有形文化財に指定されておる。この階段とお座敷群で飯屋崎省吾が華道展をやるという、そのチケットを「飽きた」という人に貰つてきたわけでございますよ奥様。ようやく話が開始地点だ! 百段階がどこにあるかでウロウロし(結局エ

ントランス付近にあつた。聞いたような有名人群(美輪! Gackt! 江原!)の花

輪を通り抜け、入り口のドアが開かないあと頑張つているとなんとこれがエレベーター。変な汗をかきながら乗り込むと内装が漆に螺鈿。これは韓国の漆芸家が云々、という解説をエレベーターの開くのにピッタリに喋りあげ(藝だ)靴を脱いで往けば百段階。ヒエッ! トイレは使用禁止かつ展示会場! ヒエッ!

ど

「こびとづかん」との謎のコラボレーション! ヒエッ! つから突つ込んでいいかわからなくなったので正攻法でいきますが、まずこの百段階、それぞれの間に「十畝」「漁樵」「草丘」等とコ

よう。てえした足腰だったでしょう。それにしても非日常。そこに飯屋崎です。華道、もう15回もやつてるとネタがなくなつてくるのかね。一言でいえばサイケデリックです。

なんだろう、斬新なことをやつていようでいて、実は幼少時の影響から抜け出せてないんじゃないの感。上手いこと言えないでゲスが。解らぬのに三文ライター如きがそんなこと云っちゃいかんゾ! 失礼しました。しかしアレ

失

です。端的に云えば霜降り牛のステーキにチョコレトパフェを載せて食わされたようなそんな気持ちです。頑張つて階段を登りきると壁一面の飯屋崎ポर्टレイトがお出迎いです。ファンだったら感動して腰を抜かし落涙必至でしょう。この大量の客が何をメインに見物に来ているのか、アタシ気になりません!

ハイライト。実際怖い!



這

々の体で雅叙園を後にして目黒不動尊に向かうわけです。家光公が目黒・目白・目赤・目青・目黄の五色の不動尊を設定したのであつた! と、中学生と筆者が喜びそうな不動尊めぐり。



細い道に黒板塀の床屋なんかがあつて風情があります。で、写真のとおり書いてあると、まあ間違えない。

鳴

呼、心が洗われる。何に穢れていたかは言明しません。甘藷先生こと青木昆陽の墓があるらしく境内にサツマイモの畑があつたりする。五色不動めぐり、シリーズ化してやってみるかなあ。

バックナンバはこちら

弊紙「アタリ」のバックナンバーはウェブサイトで <http://sbw.web.fc2.com/atari/> からご覧いただけます。

20年

二〇一四年十月十一日をもつてながしるばんり芸能活動ちようど20年になりました。ということは弊社書肆べうも前身の万里園から20年。芸能活動とい

か「そういうものがある」ことになつてから20年。記事を書くまでに色々なことを考えましたが、やっぱり「ようこそまで続けたものだ」という気持ちになるのが一番健全なのであろう、という結論に達しました。

誰も祝つてくれないので独りで騒いだ結果がこれだよ!

文フリ出ない

11月の文フリには、出ません。

「アタリ」次はいつか

わがんねえ。おしまい。